



〔参拝のしおり〕

元国幣小社・神社本庁別表社・延喜式内社

陸中一宮

駒形神社

| 年号 | 西暦 | 経歴 |
|---------|-------|-----------------------------------|
| 雄略天皇の御代 | 456年 | 上毛野胆沢公・駒ヶ岳山頂に駒形大神を勧請。 |
| 仁寿元年 | 850年 | 文徳天皇の御代・駒形大神 正五位の神階に昇る。 |
| 貞觀6年 | 862年 | 清和天皇の御代・駒形大神從四位下(奥州最高の神階)に昇格。 |
| 天喜5年 | 1057年 | 後冷泉天皇の御代・源賴義・義家父子 石田の地に塩釜大神勧請。 |
| 寛永6年 | 1629年 | 初代水沢城主 留守宗利氏・塩釜神社を御造営。 |
| 明和2年 | 1663年 | 7代水沢城主 留守村義氏・塩釜神社・現在地に遷座。 |
| 安政6年 | 1859年 | 町内全焼による大火事により、愛宕社塩釜神社も類焼。 |
| 文久3年 | 1863年 | 11代水沢城主 留守邦命氏・塩釜神社を再興。(現在の駒形神社本殿) |
| 明治4年 | 1871年 | 駒形神社・国幣小社になる。塩釜神社は駒形神社の仮遙拝所となる。 |
| 明治7年 | 1874年 | 塩釜神社は社殿大改修され、駒形神社の正式遙拝所になる。 |
| 明治36年 | 1903年 | 駒ヶ岳山頂より御神靈を塩釜神社へ奉遷。塩釜神社は別宮春日社に合祀。 |
| 昭和8年 | 1933年 | 奉遷30周年記念事業として御社殿御造営、並びに境内整備された。 |
| 平成15年 | 2003年 | 奉遷100周年記念事業として御社殿御造営された。 |



- 東北本線・水沢駅 徒歩10分
- 東北新幹線・水沢江刺駅 車で12分
- 東北自動車道・水沢I.C 車で15分



元国幣小社・神社本庁別表社・延喜式内社

陸中一宮

駒形神社

今なお多くの信仰を集め
る
武家ゆかりの陸中一の宮。

陸中一宮 駒形神社

上古の代、関東に毛野氏もとう族が台頭し、赤城山を靈山と崇敬

し、赤城の神を祀まつつて上野平野を支配し、後に上毛野國と下毛野國に分かれた。上毛野ト下毛野氏は関東に留まらず、勢力を北に延ばし、行く先々に祖国に習い、休火山で、形のいい山を探し出し、連山の中で二番目の高峰を駒ヶ岳又は駒形山と名付け、駒形大神を奉祀された。奥州の当地方にも及び、胆沢平野から雄姿を目にし、山頂に駒形大神を勧請し、駒ヶ岳と命名した。上毛野胆沢公もとうのさわといふ毛野氏の一族によるものであり、時は雄略天皇の御代（四五六六年）であった。

当社は貞觀四年（八六二年）從四位下に神階を進められたのは、陸奥国胆沢城を創建し征夷大將軍として蝦夷地を平定した坂上田村麻呂による崇敬の念の篠かつた事から始まり、この鎮守府の度々の上奏によるものである。

駒形こまという名称は古く赤城神社をカラ社と呼んだ歌が残っている。コマをカラと歌つた。当時の朝鮮は高句麗コルに都があり、高麗朝時代であり、文化伝来のあこがれの国でもあったので、コマということばを用い世間に誇示した。箱根山縁起に箱根神社が駒形神社を奉祀するには朝鮮から高麗大神を勧請したと記載しているのと同様である。このように、赤城の神は駒形の神とも言える。

坂上田村麻呂や源賴義、賴家父子も駒形神社を厚く崇敬し、武運祈願成就した事実を知り、この奥州に栄華を絶いた藤原氏とうげうも駒形神社に崇敬の念を奉り、平泉より比上川を



駒形神社 御社殿内部



